

## 第42回（令和5年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校低学年の部＞応募総数：110

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	下川口小	2年	瀬川 瑠奈	「さっちゃんのまほうのて」を読んで
優 秀	清水小	1年	田部 雅人	「こころのはなたば」
	清水小	2年	松井 美陽	「おんなのこのでんきえほん」をよんで
入 選	清水小	1年	長崎 功起	ありにきょうりよくしてもらう
	三崎小	1年	細川 明璃	「うみのそこたんけん」
	足摺岬小	1年	山下 小町知	「けんかのたね」をよんで
	三崎小	2年	川上 裕明	物知り博士になるぞ
	清水小	2年	菊池 葵	おとうさん・パパ・おとうちゃん

### 【審査評】

どの作品も一生懸命に書いているのが伝わりました。  
 自分の家族を思い浮かべたり、生活を振り返ったりして書けていました。  
 自分の気持ちを素直に書けているのがよかったです。

## 第42回（令和5年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校中学年の部＞応募総数：105

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	三崎小	3年	三木 一叶	「給食室のいちにち」を読んで
優 秀	清水小	3年	小松 咲良	しっぱいにかんぱい！を読んで
	三崎小	4年	窪内 碧	「かあちゃんの取扱説明書」を読んで
入 選	幡陽小	3年	谷岡 琉加	「化石のよぶ声がきこえる」を読んで
	三崎小	3年	窪内 瑛音	みさき食堂へようこそ
	清水小	4年	植田 康介	だれにでもやさしく
	足摺岬小	4年	井上 晴仁	「あいしてくれてありがとう」を読んで
	下川口小	4年	竹葉 響	「給食室のいちにち」を読んで

### 【審査評】

積極的に課題図書を読んでいた。  
 生活を関連づけた作品が多かった。  
 それぞれが読書をすることで、自分の思いや願いを素直にかけていた。  
 指定された文字数に足りてない作品があり残念だった。  
 物語が多く、科学分野のジャンルの感想文が少なかった。

## 第42回（令和5年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校高学年の部＞応募総数：130

	学校名	学年	氏名	題名
優 秀	三崎小	5年	岩井 子龍	「ふたりのえびす」を読んで
	清水小	5年	黒木 かな	戦争を知らない私たち
	清水小	6年	樋口 颯汰	「生きている今だからできること」
入 選	幡陽小	5年	江口 璃依紗	「ぼくの弱虫をなおすには」を読んで
	清水小	6年	小倉 桃果	「自分の心」
	下川口小	6年	内原 希歩	「犬と私の十の約束」を読んで
	清水小	6年	寺田 弥智瑠	にげることも立ち向かうことも全て勇気
	足摺岬小	6年	野村 涼太	命の大切さ

### 【審査評】

指定された文字数を意識した作品が多かった。  
 はば広いジャンルの本を選んで書かれていた。  
 内容としては、本の内容と自分のことを関連づけて書けているものが多かった。  
 学年の発達段階に合っていない本を選んでいるものもあり学年に合った読書を心がけてほしい。  
 指導者は、推稿をおこたらないように！！

## 第42回（令和5年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜中学校の部＞応募総数：31

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水中学校	2年	新谷 今日子	自分軸の人生を歩む
優 秀	清水中学校	1年	藤田 遙伽	「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」を読んで
	清水中学校	2年	竹村 彩芭	時代をこえて
入 選	清水中学校	2年	小橋 春愛	「竜とそばかすの姫」を読んで
	清水中学校	2年	山本 悠月	人間失格を読んで
	清水中学校	2年	山本 梨央	きみと僕の5日間の余命日記

### 【審査評】

- 本を読み、その内容を抽象化したり、自分の経験や体験と重ねて自分への問いかけを行いながらまとめたりすることに挑戦することができていた。
- 読書対象として選ばれていた本は、映像化されたものや、社会的に話題になったもの、自分自身の悩みに応えてくれるもの等、多岐にわたっていた。
- 上記のような本を読んだ読書体験を語ったもの、また本の中の描写や表現について深く考えることができている作品もあり、読み応えがあった。

## 第42回（令和5年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

<高等学校の部>応募総数：70

	学校名	学年	氏名	題名
優秀	清水高	1年	川久保 侑	お母さんは命がけであなたを産みました
入選	清水高	1年	宮村 建太郎	信念は目に写る
	清水高	1年	松下 夢音	繋げる思い

### 【審査評】

様々なテーマの作品に、審査を忘れて楽しませてもらいました。

そのなかでも、老漁師と大魚との死闘から、自分の信念を曲げず力強く生きることを読み取っていくという作品。また、遺族と故人をつなぐ復元納棺師についてしたこと、改めて日常の大切さを考えたという作品。そして、助産師の体験記を通して命の大切さを学び、母への感謝を述べた作品の3つは秀逸だと思います。

このように、様々なテーマの作品に共感しながら、自分や周りの物事についてより考えを深めていくこと、そして、そこでの思いを自身の言葉で語ることは、人間的に成長できる好機となったはずです。

皆、この素晴らしい読書体験を通して視野を広げ、高校生として今後の生活を実りのあるものにしてほしいと願います。